

平成 30 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(開発)を受賞しました (2018/4/17)

テーマ：津波浸水被害予測

場所：文部科学省講堂（東京都千代田区）

災害科学国際研究所 災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野の越村俊一教授と村嶋陽一特任教授（客員・国際航業株式会社）、災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野兼任の日野亮太教授（東北大学理学研究科）、東北大学情報科学研究科の小林広明教授と撫佐昭裕客員教授（日本電気株式会社）が、平成 30 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発）を受賞し、2018 年 4 月 17 日に表彰式が行われました。文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発）は、我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与し、実際に利活用されている画期的な研究開発もしくは発明を行った者に対して授与されるものです。

この度の受賞は、「リアルタイム津波浸水被害予測システムの開発」に対してであり、スーパーコンピュータの災害時利用を実現し、地震情報の自動取得と津波発生・伝播・浸水・被害予測、結果の図化・配信をリアルタイムで行うという目標を立て、基礎研究および産学連携による共同研究を推進しました。この研究により、スーパーコンピュータに災害時モードの運用を確立し、いつ津波が発生しても迅速に浸水被害予測ができるよう、地震・津波発生時の緊急利用技術の実用化に成功しました。このシステムは 2017 年 11 月に、内閣府津波浸水被害推計システムとして運用が開始され、南海トラフ地震への備えとして、鹿児島県から静岡県までの 6,000km の海岸線を対象に、運用を開始しました。我が国の津波災害対策・対応の高度化と国土強靱化に寄与しています。



受賞メンバーと記念撮影

左から、小林広明教授、日野亮太教授、越村俊一教授、撫佐昭裕客員教授、村嶋陽一特任教授

文責：越村俊一（災害リスク研究部門）